

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 黒畑 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

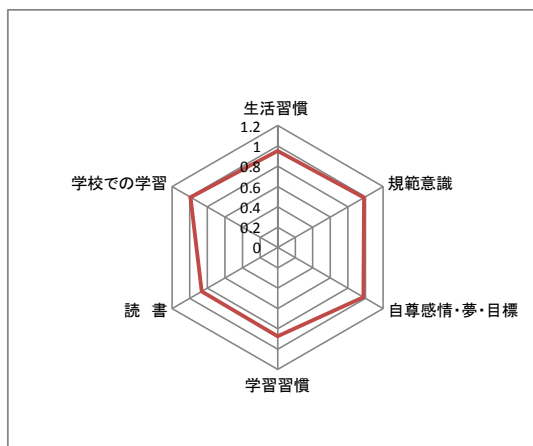
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均を下回っていたが、話す・聞く能力や書く能力を問う設問の回答率は高かった。</li> <li>・ローマ字や漢字の読み書きに関する問題の正答率が低かった。繰り返し練習することで定着させる必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する問題は、正解率が高かった。</li> </ul>	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローマ字を書く問題は、3問とも正解率が低く、無解答率も高かった。</li> </ul>	
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式だけでなく、選択式の問題に対しても無解答率が高い。文章量が多く、読む前に諦めている傾向が見られる。長文に慣れ、どこが聞かれていることか、必要なことは何かを判断する力が必要である。</li> <li>・国語への関心・意欲・態度がかなり低く、根気強く取り組む姿勢をはぐむ必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する問題は、正解率が高かった。</li> </ul>	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「パン職人」について紹介したい内容をまとめて書く問題は、正解率が低く、無解答率も高かった。</li> </ul>	
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形・数量関係領域においてはほぼ全国平均である。基礎的な計算力についての定着が今一つであり、繰り返し練習することで定着させる必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4枚の三角定規でつくることのできる形を選ぶ問題は、正解率が高かった。</li> </ul>	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末尾の位のそろっていない小数の加法の計算問題は、正解率が低く、無解答率も高かった。</li> </ul>	
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、数と計算領域の設問の正答率は、全国平均とほぼ同程度であった。</li> <li>・記述式の問題に対し、無解答率が高い。特に後半の問題になるほどその傾向が強くなっている。辛抱強く問題に取り組む姿勢を日頃から身に付けさせるとともに、時間配分のしかたについても指導する必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとしてふさわしい数値の組み合わせを書く問題は、正解率が高かった。</li> </ul>	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフを見比べ読み取った事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く問題は、正解率が低く、無解答率も高かった。</li> </ul>	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が好きではない児童が増えている。朝の読書タイムの継続的な取組や、読書への意欲づけの工夫が必要である。</li> <li>・本校児童は文章を書くことに抵抗感を持っている。国語科において多様な言語活動するのみでなく、各教科において、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けるなど、書く習慣をつける授業を積極的に行う必要がある。</li> <li>・算数科については、児童一人一人が意欲的に学ぼうとするようになり、全国平均正答率に年々近づいてきている。日常の事象と算数とを結んで、算数を活用するよさやおもしろさを実感できる授業を目指してきた結果が表れている。</li> <li>・本校の児童は、学校に来るのを楽しみにしており、欠席者も少ない。学校生活を楽しんでいると言える。</li> <li>・平日テレビやビデオを見る時間は減少してきているが、2時間以上見ている児童がまだ半数以上もいる。学習習慣の確保や健康管理の面からも大きな課題である。</li> </ul>

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上のための特設時間の充実
  - ・全校一斉の「読書タイム」(毎朝10分間)において、事前に本を用意させ10分間の読書時間を確保する。また、本の紹介等を通じて多岐にわたるジャンルの本に慣れ親しませる。
  - ・黒畑タイム(5校時前の10分)の確実な実施と、黒畑タイムで使用する算数科プリントの充実を図る。
- 「書く」ことの習慣化
  - ・各教科において、自分の考えを整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書かせたりする活動を位置付ける。
- 子ども新聞の活用
  - ・学校図書館に掲示したり、お昼の放送のコーナーで紹介したりする。
- 算数科の「活用する力」を高める授業の実施
  - ・算数科の研究を生かして、日常事象と算数とを結んで、算数のおもしろさやよさを実感できる授業の実施を目指す。
- 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
  - ・アシストシートやWEB問題を長期休業中の宿題として活用し、基礎基本の徹底を図る。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
  - ・家庭学習時間のめやすを示す。(学年×10分+10分)
  - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して、具体的に学習内容を示す。
  - ・家庭学習マイスター賞への応募を積極的に促し、自学・自習の習慣を身に付けさせる。そのために、家庭学習に積極的に取り組んでいる児童の自学ノートを常時掲示している場所を設置し、他の児童への意欲付を図る。
  - ・学習参観、懇談会、学校だより、学年だより、PTA理事会等、様々な機会を通して、家庭へ啓発していく。
- 全国学力・学習状況調査結果の課題と今後の取組等を保護者へ周知
  - ・学校だより、学級懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
  - ・テレビやビデオを見る時間の制限を、各家庭で行うよう協力を求める。
  - ・ノーテレビ、ノーゲームデーの実施を呼びかける。